

## 集会宣言

私たちは六月六日から三日間、第五十三回全国保育問題研究集会を大阪で開催し、過去最高の二一三三人の仲間が集いました。

東日本大震災から三年が経ち復興が進む一方で、既に過去の出来事として風化されつつある傾向もあります。しかし、福島における原発被害は未だ深刻な状況が続いています。放射能との闘いはまだ始まったばかりです。大切な自然や日常を奪われるなか、それと向き合いながら保育が進められています。「子どもの命と尊厳が大切にされる保育」とは何かが引き続き問われているのです。この未だ誰も直面したことのない深刻な事態のなかで、保育者は日々学習し工夫を続け新たな保育をつくりあげてきています。私たちは、決して東日本大震災を、そして原発被害を風化させず、福島を始めとする多くの実践から学び、「子どもの命と尊厳が大切にされる保育」を追究すること、そしてこれからも現地と交流しあい、保問研だからこそできる支援をつくりあげていくことが大切です。

この集会在開催された二〇一四年は「子ども・子育て支援新制度」施行一年前という年です。「待機児童解消」を名目にし、保護者に自己責任を強い、保育が必要とされる子どもたちが排除されかねません。保育の基準が多元化され格差が生まれてしまう危険もはらみ、「子どもの命と尊厳」が保障されない保育が横行してしまう危険のある制度です。

私たちはこの集会で、大阪の保育は保育研究と運動を両輪として取り組んできたこと、半世紀前から「乳児の集団保育」・「長時間保育」を全国に先駆けて行い制度化してきた歴史を学びました。そして今も、自治体首長が住民本位から企業財界優位の行政へ転換し、公立保育園を始めとする公的保育に対してもかつてない攻撃を行い、子ども・子育て新制度を先取りした施策が進められてきていることに対して、大阪保問研を中心に実践者と研究者を始め多くの保育関係者が手をつなぎ、それをはねのけ前に進もうとしている、その取り組みも学びました。その力は、今ここに大阪の方々がこれほどたくさん集まってくれたことでも証明されています。この力を受けとめて、全国に広げていきましょう。

新たに設定される幼保連携型認定こども園の保育要領案では「教育」と「保育」を分離し、「保育」にはねらいや内容も示しませんでした。新制度では、教育と一体化である保育の概念を大きく打ち壊そうとしています。これまで多くの実践の中で積み上げてきた保育に「教育」が含まれないとでもいうのでしょうか。さらに「准保育士」や「子育て支援委員」など、保育の仕事を軽視する構想が出されています。保育の専門性が今、問われています。このままでは保育が保育でなくなってしまう。絶対に許すことはできません。

保問研は、保育実践から保育の専門性・可能性を学び積み重ねてきました。困難なときこそ、保問研の真価が問われるときです。度重なる災害からの復興を果たした保問研の役割を、そしてこれまでの実践と研究の蓄積から、保育を護り発展させていくために、私たちが学び続けること、手をつなぐこと、あきらめないこと。今こそ保育のすばらしさと可能性を大きく光り輝かせていきましょう。

そして、この大阪で学び確信した力を全国に広げ、来年の石川へつないでいこうではありませんか。以上、宣言いたします。

